

2022年12月26日

積水化成品工業株式会社（本社：大阪市北区西天満2-4-4 社長：柏原正人）は、生分解性プラスチックを活用した新製品「RETONA FOAM BIO」を開発しました。

生分解性発泡体「RETONA FOAM BIO」を開発

1. 背景

現在、当社は気候変動や海洋ゴミ問題などの地球全体の環境課題に対して、企業活動を通じた取り組みSKG-5Rを推進し、2030年までに全製品を構成する原材料の50%以上をリサイクル材料や生分解性プラスチックもしくはバイオマス由来プラスチックに置き換えるという目標を掲げています。

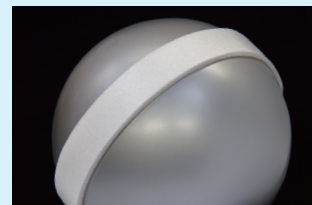
このたび開発した「RETONA FOAM BIO」は、PLAやPBSなどの生分解性プラスチック由来の発泡体の総称で、「BIO Cellular」ブランドに該当し、今後ラインアップの拡充を推進するとともに、用途開発に向けての取り組みを強化します。すでに、地球環境に配慮したディスプレイ用資材として提供を開始しました。

現在、展示会や見本市などのブース装飾は会期終了後の大量廃棄が課題となっていますが、廃棄後、水と炭酸ガスに分解される「RETONA FOAM BIO」は、環境負荷低減が可能な素材として使用することが可能です。



2. 「RETONA FOAM BIO」の特長

- PLAやPBSなど生分解性樹脂からなる発泡体です。
- コンポスト(堆肥)など自然界で存在する微生物の働きによって、水と炭酸ガスに分解されます。
- 製品例として、ディスプレイ用途向けでは、しなやかで追従性があり曲面に貼り付けるなどの立体的な造形が可能です。



しなやかで曲面追従性がある素材で、立体的な造形も可能

3. 今後の展開

- ・ 販売目標 : 2030年度 売上200億円
- ・ 想定分野/用途 : 地球環境に配慮した各種ディスプレイ資材のほか、フリップボードなどとして提供を開始する予定です。また、従来の発泡樹脂と比較して、加工性や意匠性に富むため、エレクトロニクス領域の電子部品梱包材や、食領域の各種パッケージ資材など、幅広い分野で地球環境に貢献できる素材として用途開発を推進しています。

以上